

II-3 カリキュラム見直しのポイント

カリキュラム見直しのポイント

(1) 告示・標準カリキュラムの見直し (獲得目標、学習内容、時間数)

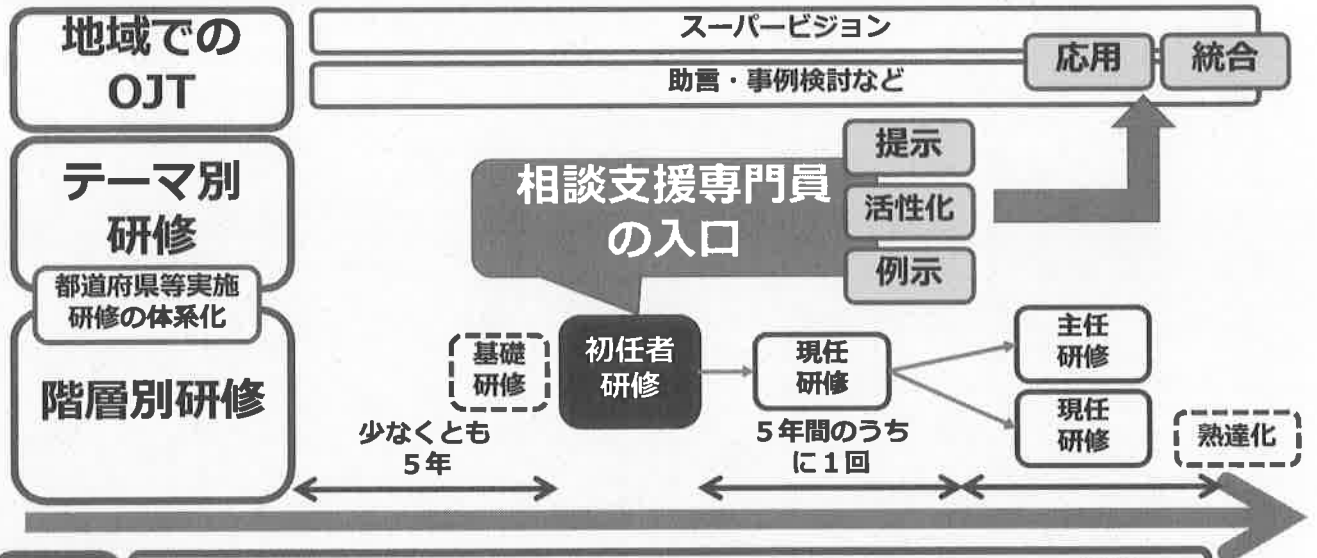
(2) 教育方法の見直し 厚生労働科学研究・障害者総合福祉推進事業の成果

- ・主体的かつ参加型の学習方法への転換(学習観の転換)
 - ・演習や実習のさらなる重視
 - ・オープンエンドアプローチの視点の導入 cf. 実践場面との整合性
- ・研修全体の連動性の重視
- ・継続的な学びの必要性の強調
 - ・研修における実習の導入(初任)や推奨(現任)
 - ・実地教育(OJT)との連動の導入
 - ・スーパービジョンや合議の場の体験等を導入(初任・現任)
 - ・自己評価等の導入を推奨(初任・現任)

→ 都道府県における企画立案方法の見直し

- ・検討体制、研修体系、教材開発、講師選定・確保、地域との連動など

継続的な学びの中での初任者研修とその獲得目標

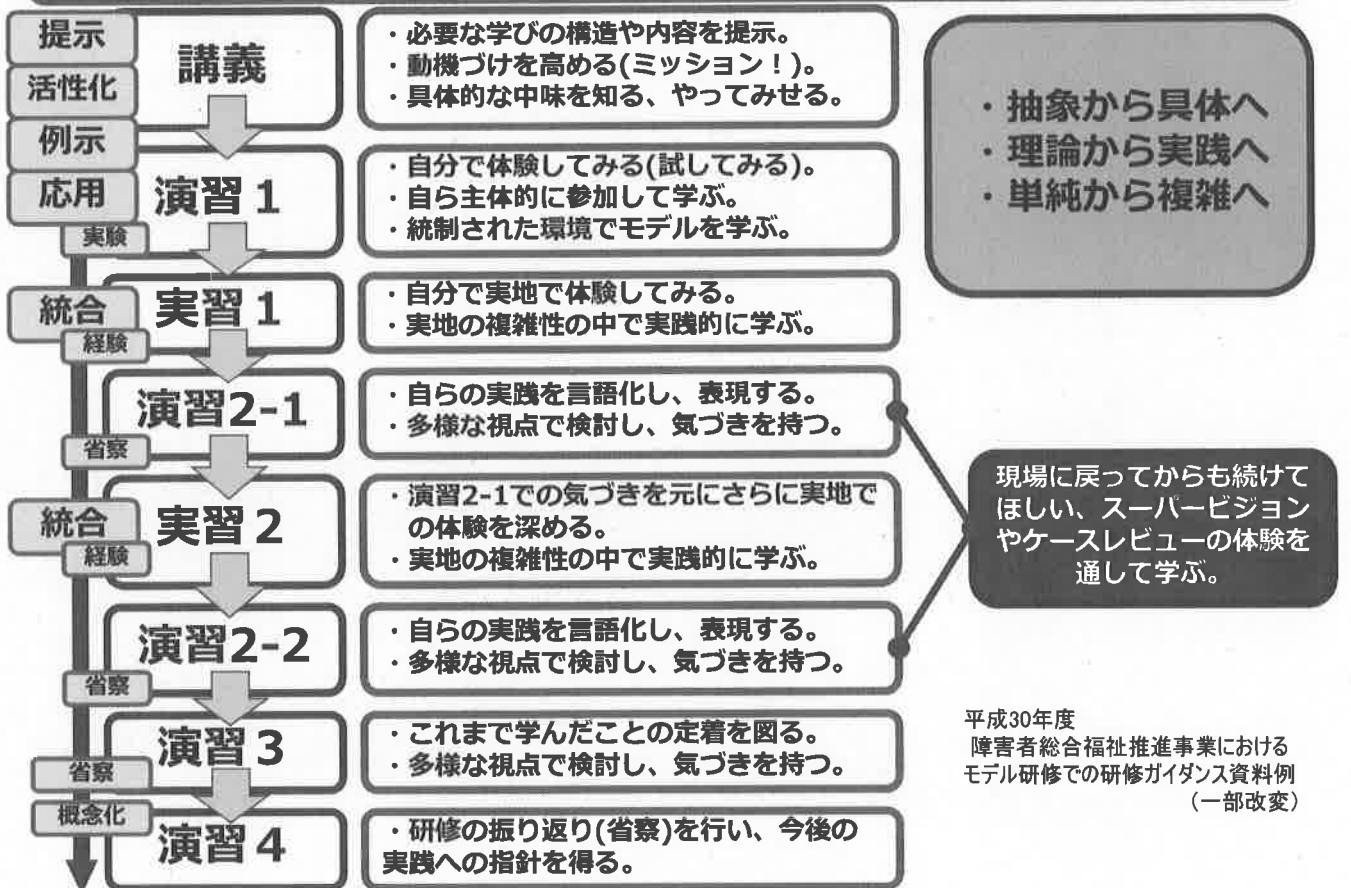


獲得目標

- ① 地域を基盤としたソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する。
- ② 基本相談支援の理論と実際を理解し、障害者ケアマネジメントのスキルを獲得する。
- ③ 計画相談支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる。
- ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する。

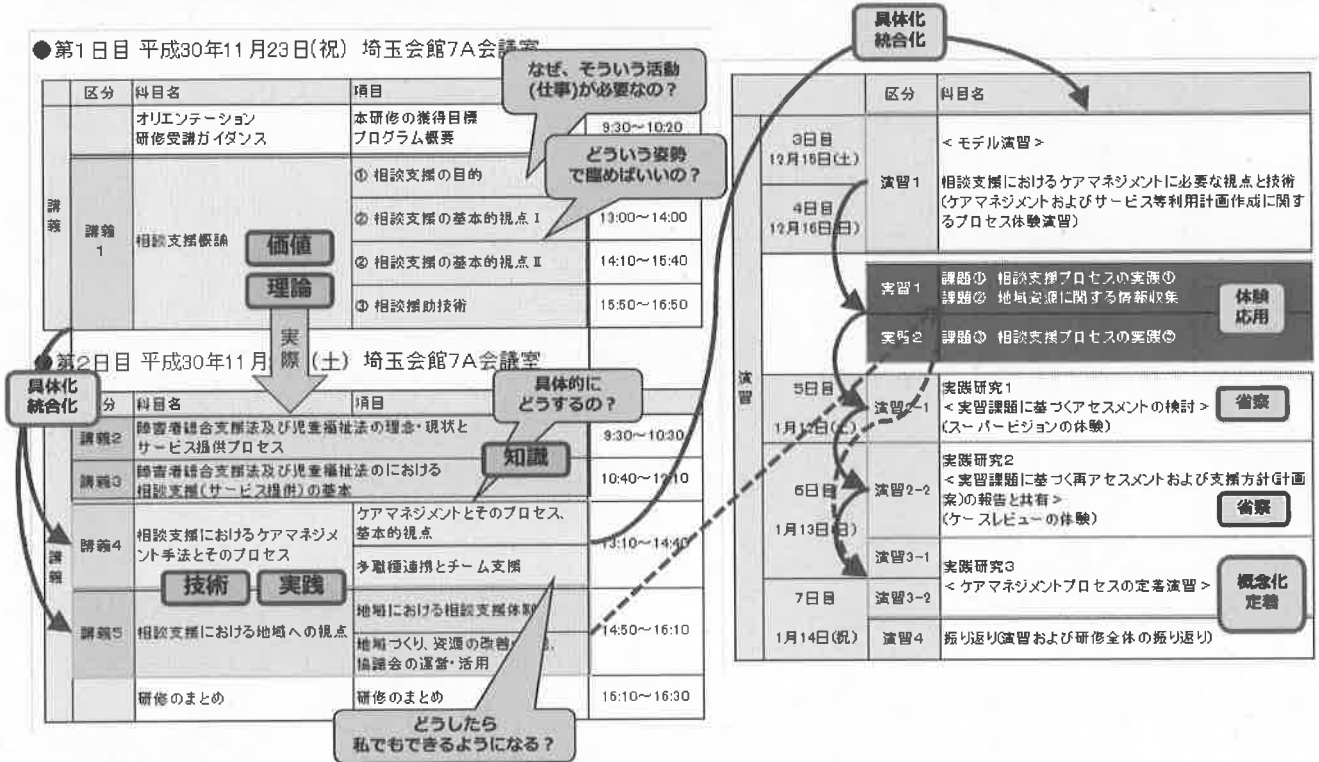
平成30年度 障害者総合福祉推進事業におけるモデル研修での研修ガイダンス資料例（一部改変）

初任者研修の構造



平成30年度
障害者総合福祉推進事業における
モデル研修での研修ガイダンス資料例
(一部改変)

この研修の構造と各科目の関連



平成30年度 障害者総合福祉推進事業におけるモデル研修での研修ガイダンス資料例

現任研修の構造

【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術

- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる。
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる。
- ③ コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践することができる。
- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的に研鑽を継続した実践をすることができる。



平成30年度 障害者総合福祉推進事業におけるモデル研修での研修ガイダンス資料例(一部改変)

振り返り・自己評価シート

受講前後で受講生本人が 自らのことを確認

事前

- ・ 姿勢
- ・ 初期状態

事後

- ・ 気づき

事前・事後の変化を自己覚知

平成30年度

障害者総合福祉推進事業における
モデル研修での研修ガイダンス資料例
(一部改変)

初任者研修 振り返り・評価シート (科目別)		氏名: _____									
科目名	オリエンテーション 研修受講ガイダンス	受講日									
<p>本シートは、初任者研修で習得すべきことについて、研修の受講前後の自らの理解度を可視的に捉えるものです。</p> <p>【事前評価】① 本研修で自らが特に重点的に学ぶべき点を意識して研修に臨む。</p> <p>【事後評価】① 受講後の学習効果を確認する（身についた、自己評価と相違があった等）。</p> <p>② 今後の実践や学びに向けた指針を確認する。</p> <p>○ 以下の獲得目標毎の自己評価を10段階で評定し、記入する。</p>											
獲得目標	評価		気づき等								
	受講前	受講後									
① 相談支援従事者の役割・ミッションについて説明できる。											
② 相談支援従事者に必要とされる力について説明できる。											
③ なぜ学びとその継続が必要か、具体的にどのような学びの方法があるかについて説明できる。											
④ 相談支援専門員の人材育成体系について説明できる。											
⑤ 継続的な学びの必要性について説明できる。											
⑥ 本研修の獲得目標について説明できる。											
⑦ 本研修の構造について説明できる。											
	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	←できる								できない→		